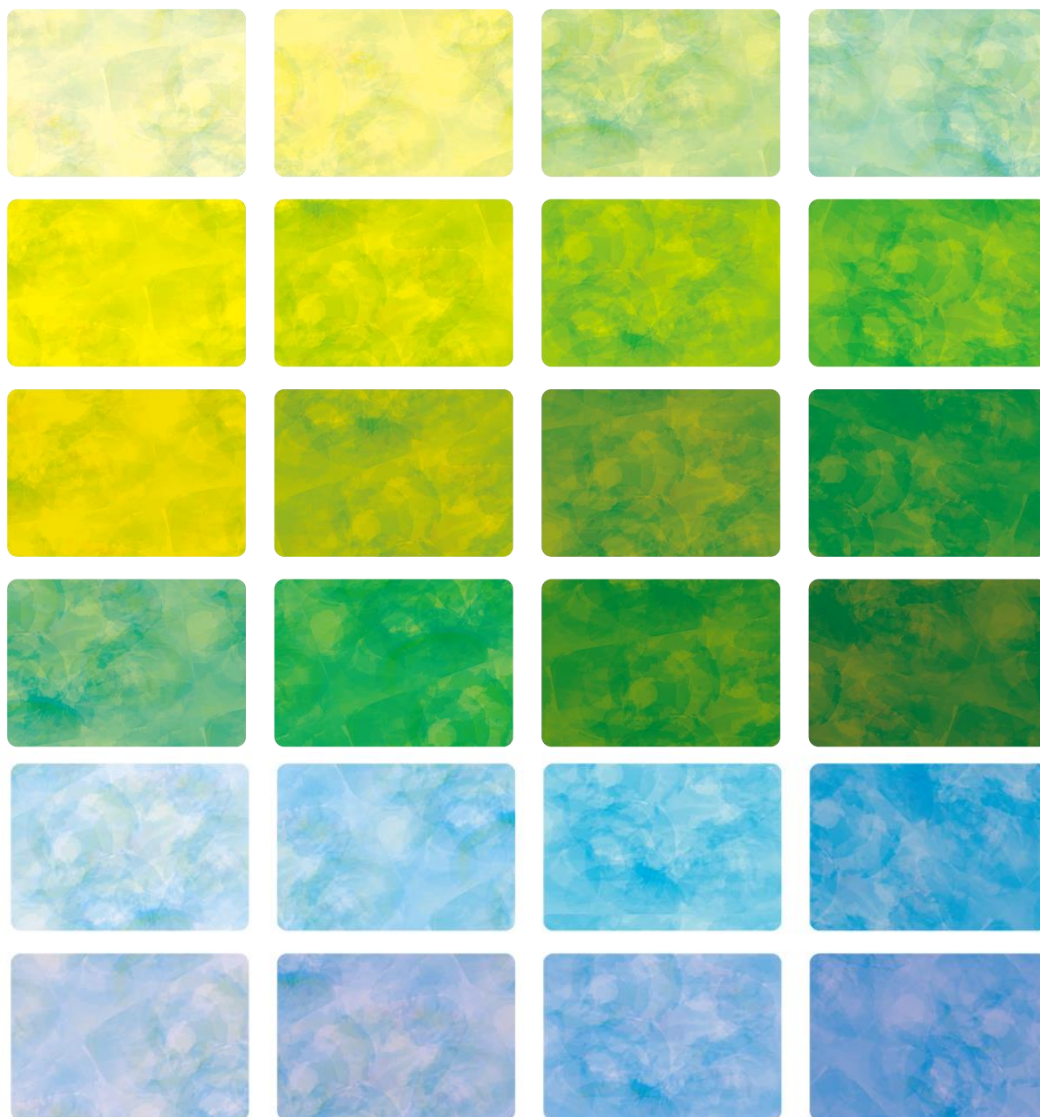


四国地方における

森里川海流域連携 事例集



平成 30 年 10 月

環境省中国四国地方環境事務所四国事務所

森・里・川・海 そして流域連携へ

森や町に降った雨は、川を下って海へと注ぎます。水は、森から土や栄養を川や海へと運び、生きものの命を育みます。しかし同時に街にあるごみも流してしまい、そのごみは海に溜まっていきます。森・里（街）・川を守ることが、海を守ることに繋がります。

森里川海の自然が豊かであるということは、きれいな空気や水、安全な食べ物等、その恩恵を私達が受け、健康で豊かに暮らすことができる、ということです。

今、このつながりの重要性が見直されていますが、森里川海の自然はその豊かさを失い、つながりも途切れてしまっているのが現状です。

森のピンチ！



手入れが進んでいない人工林の保水力が低下しています。
シカが森に増え、樹皮や下草を食べてしまうので、木が枯れたり土が露出（裸地化）しています。
ゲリラ豪雨等の大雨時だけでなく、少量の雨でも土砂崩れの発生が増えています。

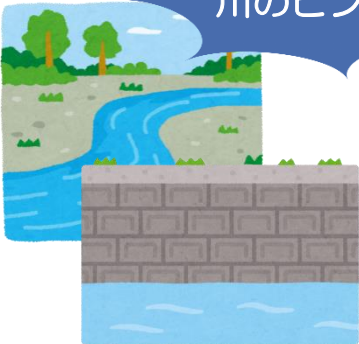
スギやヒノキの人工林には、シカやイノシシの餌になる木の实や虫がないので、里に降りてきて田んぼや畑を荒らしています（獣害）。

人口減少や高齢化で、里山保全や伝統文化継承に関わる人が減っています。

里のピンチ！



川のピンチ！



森から流れてきた土や石、栄養が途中でせき止められるため、濁水の長期化やアユの餌になる藻が減っています。

コンクリートで囲われた所が多くなると、生きものの住みかが少なくなります。
街で捨てられたごみや生活排水・工業排水が川へ流れ込み、化学物質による汚染が進んでいます。

海のピンチ！



森から流れてきた土や石が途中でせき止められ、砂浜が痩せています。
栄養もせき止められるので、磯焼けの発生や漁獲量が減っています。
街から流れてきたごみを間違えて食べてしまい、たくさんの海鳥やカメ、クジラなどが死んでいます。

つまりは・・・森里川海のピンチ！！

森里川海を訪れる人が少なくなったため、多くの人は各地で起きている問題に気づくことが難しくなっています。問題を知り、課題解決のために取り組む人を増やす必要があります。



環境省は平成 26 年 12 月、「つなげよう、支えよう森里川海」と銘打って、省内にプロジェクトチームを立ち上げました。

「つなげよう、支えよう森里川海」という名には、「森里川海を保全し、それぞれをつなげる」という意味が込められていますが、森里川海だけではなく、それらに関わる「人」もつなげていくことが大切です。

▶▶▶ URL : <https://www.env.go.jp/nature/morisatokawaumi/>

第五次環境基本計画

環境基本計画は、環境基本法に基づき、政府の環境の保全に関する総合的かつ長期的な施策の大綱等を定めるものです。中央環境審議会の答申を受け、第五次環境基本計画を平成 30 年 4 月 17 日に閣議決定しました。

本計画は、SDGs、パリ協定採択後に初めて策定される環境基本計画です。SDGs の考え方も活用しながら、分野横断的な6つの「重点戦略」を設定し、環境政策による経済社会システム、ライフスタイル、技術などあらゆる観点からのイノベーションの創出や、経済・社会的課題の「同時解決」を実現し、将来に渡って質の高い生活をもたらす「新たな成長」につなげていくこととしています。

その中で、地域の活力を最大限に発揮する「地域循環共生圏」の考え方を新たに提唱し、各地域が自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合う取組を推進していくこととしています。（環境省平成 30 年 4 月 17 日報道発表資料より）

6つの重点戦略 ▶▶▶

- 1 持続可能な生産と消費を実現するグリーンな経済システムの構築
- 2 国土のストックとしての価値の向上
- 3 地域資源を活用した持続可能な地域づくり
- 4 健康で心豊かな暮らしの実現
- 5 持続可能性を支える技術の開発・普及
- 6 国際貢献による我が国のリーダーシップの発揮と戦略的パートナーシップの構築

エス・ディー・ジーズ

SDGs

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2001 年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標です。

持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。SDGs は発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

（外務省ホームページより）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための 17 の目標



1. コウノトリ定着推進連絡協議会

取組実施地域：吉野川流域（徳島県鳴門市周辺）

① 平成 29 年度の取組内容

- 1) コウノトリの野外繁殖関係
繁殖調査（産卵、抱卵、孵化、給餌、巣立ち）、足環装着（県のプロジェクトチームに参加）
あしわ
- 2) マナー対策
営巣地周辺へのカメラマンの立ち入り、自動車の乗り入れの自粛のお願い（看板設置、HP）
- 3) 情報発信
ホームページ、フェイスブック、インスタグラムでコウノトリの様子や協議会の活動を紹介
発信回数約 500 回、閲覧数 30 万件以上
- 4) イベント
観察会 2 回（コウノトリとレンコンの学習）、ピオトープ作り（大学生、高校生、中学生）、イラストコンクール（約 220 点応募）、コウノトリとの共生 県民のつどい（柳生博氏講演会ほか）
- 5) 「コウノトリれんこん」
市のコウノトリブランド認証＋特別栽培出荷（平成 29 年 9 月から）



学生、生徒と魚道作り

徳島

② 取組参画協力団体構成図

NPO れんこん研究会、東大幸エコファーマーズ、JA 徳島北、JA 大津松茂、徳島大学、四国大学、大麻町商工会、日本野鳥の会徳島県支部、徳島希少鳥類研究会、徳島県（事務局）、鳴門市（事務局）、兵庫県立コウノトリの郷公園（アドバイザー）

2. 特定非営利活動法人徳島保全生物学研究会

取組実施地域：勝浦川流域（徳島県上勝町・勝浦町・小松島市・徳島市）

① 平成 29 年度の取組内容

- 1) 4 月 29 日（第 1 回講義）～10 月 15 日（第 8 回講義）
- 2) 全 8 日間で 15 単位（1 単位 90 分）の講義を高校生以上を対象に開催
- 3) 第 1 に五感を使って体感することで生物多様性を学ぶフィールドでの活動を主体としている。そのため、第 2 に安全管理には充分留意して実施
- 4) 参加者募集は 3 月中旬から開始し、定員は 20 名である。
- 5) 身近な自然をとおして、生きものに関心を持ってもらうことで、生物多様性の大切さを知ってもらいたいと活動している。生物多様性リーダーを育成することも重要なミッションである。12 月には、これまでの活動が評価され、環境省「生物多様性アクション大賞 2017」ふれよう部門を受賞した。



専門家の話に聴き入る市民

② 取組参画協力団体構成図

生物多様性とくしま会議ネットワーク構成団体（22 団体）、徳島大学環境防災研究センター、徳島県環境首都課、勝浦町教育委員会、流域で生活基盤をもつ地域の歴史・文化・風習などを知る地域住民

3. 海守さぬき会

取組実施地域：瀬戸内海を囲む府県

香川

① 平成 29 年度の取組内容

香川県、瀬戸内オリーブ基金等の協力をいただきながら活動をしている。今は海底ごみから、マイクロプラスチックの問題へ深化してきている。きれいで豊かで安心なふるさとの海を守り、次の世代につないでいかなければならないという関心を持った子どもを育てることが、自分たちの最大の役割だと考えている。故郷（ふるさと）の海レスキュー隊計画 2017 を、8 月に男木島周辺で開催し、中学生と、教員 47 名、スタッフ 10 名が参加した。底曳網漁でかかってくる海底堆積ごみや漂流ごみの実態を見てもらった後、海岸での漂着ごみ一斉清掃等の体験型環境学習会を実施した。

② 取組参画協力団体構成図

- 3 香川県、高松市、東瀬戸漁業協同組合、みなと総合研究財団



故郷の海レスキュー隊計画 2017

4. NPO 法人瀬戸内オリーブ基金

取組実施地域：瀬戸内海を囲む府県

① 平成 29 年度の取組内容

瀬戸内オリーブ基金は、他団体に対する助成活動と直轄事業の 2 本立てで活動している。

これまでの助成先の中で、山・川・海の連携をテーマに活動している団体に対し、海ごみやマイクロプラスチックの問題への対応について働きかけをしている。今後は、各団体と具体的な協働活動について検討を始める予定である。

香川県内の活動では、海守さぬき会と協働で、海底ごみに関する啓発活動を行うとともに、漁業者が引き上げた海底ごみは、排出元の如何を問わず行政の責任で処分するよう関係機関等に働きかける活動を行い実現している。



兵庫県山間部での植樹

② 取組参画協力団体構成図

- ・海守さぬき会…香川県で連携し、協働活動を実施している。
- ・助成先の各団体

5. 香川県環境管理課 里海グループ

取組実施地域：香川県全域

① 平成 29 年度の取組内容

香川県では全国に先駆けて「人と自然が共生する持続可能な豊かな海」の実現を目指して、里海づくりを推進しており、山・川・里（まち）・海を繋げる施策を総合的に進めている。

里海づくりの中で、海ごみ対策は特に重要な課題であることから、平成 25 年度から「香川県海ごみ対策推進協議会」を設立し、香川県全域で取り組む、香川県方式の“海底堆積ごみ回収・処理システム”を実施している。これは、漁業者がボランティアで底引き網漁等にかかったごみを陸まで持ち帰り、県及び市町が回収・処理をするシステムである。その処理費用は県と内陸部を含む県内全市町が負担しており、全国唯一の取り組みである。

② 取組参画協力団体構成図

【香川県海ごみ対策推進協議会構成団体】

国、県、市町（内陸部を含む全市町）、
香川県漁連、香川県環境保全公社



役割分担



6. 愛媛大学農学部サークル「農民」

取組実施地域：愛媛県松山市内

愛媛

① 平成 29 年度の取組内容

- 1) 愛媛大学農学部の農場でいろいろな野菜づくりを行っている。
- 2) 東雲コミュニティーファームで東雲小学校 2 年生を対象にしたサツマイモ植え、収穫
- 3) 地元の小学生向けの環境学習の場づくり（畑や公園にいる生き物観察会）
- 4) NPO 法人えひめ 311 の古川農園での活動（ボカシ堆肥作り、イベント等）
- 5) オクラを育て、子ども食堂に食材として提供した。
- 6) インターナショナルエコ防災（炊き出し訓練等）

② 取組参画協力団体構成図

愛媛大学農学部サークル「農民」、NPO 法人えひめ 311、古川農園チーム、久米ふれあい食堂、まつやま子ども食堂清水店、NPO 法人えひめグローバルネットワーク

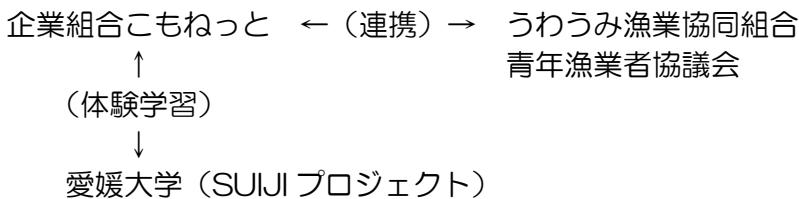
7. 企業組合こもねっと

取組実施地域：愛媛県宇和島市蔦淵地区

① 平成 29 年度の実践内容

藻場造成事業：藻場の造成のため、ガンガゼウニの駆除と母藻の移植を行っている。

② 取組参画協力団体構成図



愛媛大学生向け体験学習

8. プロジェクト地球っ子ひろば

取組実施地域：愛媛県東予地区

① 平成 29 年度の実践内容

- 1) 水と生きものがつなぐ、森・里づくり
- 2) コナラの落葉の堆肥場、田んぼの水生動物が鳥（サギやカモ類）から逃られる生息場づくり
- 3) 間伐ヒノキの皮むき・伐倒・シイタケ栽培・落葉採取・植樹作業による、森の保護・再生活動
- 4) 食へのめぐみを感じさせる田植え・刈り取り～もちつきまでの一貫したプロセス作業活動
- 5) ドングリを用いたアイスブレイク、オリエンテーリングと自然観察を組合せた体験ゲーム、その場にある材料を用いた工作などと、活動中の子供たちに飽きの来ないプログラムづくり

② 取組参画協力団体構成図

技術指導支援団体：うずい里山保全の会、新居浜市大生院土地改良区

参画団体：新居浜市「ササガ」クラブ、四国中央市 ViVid 陸上競技クラブ、新居浜高専有志ボランティアグループ

協力：新居浜市立泉川小学校、王子幼稚園、大生院公民館、角野公民館、西条市飯岡公民館
新居浜市社会福祉協議会、まちづくり協働オフィス、四国 EPO



どれがドジョウかな？



間伐ヒノキの皮むき



落ち葉採取



伐倒ヒノキの枝払い



田植え



稲刈り

9. NPO 森からつづく道

取組実施地域：愛媛県松山市北条地域

(旧北条市、平成 17 年 1 月松山市に合併)

① 平成 29 年度の実践内容

- 1) 風早生きもん DAYS (小学生対象の生き物観察会)
 - ・8月2日「田んぼの生き物を知ろう!」、8月7日「トンボ博士になろう!」
- 2) オオキトンボの里づくりプロジェクト (地球環境基金助成)
 - ・オオキトンボの生活史および、ため池別の在不在調査
 - ・地元関係者および小学校授業として産卵の観察会を実施
 - ・ため池の水管理・改修工事のヒアリング
 - ・10月22日「風早トンボサミット!」の開催
 - ・生きもの下敷き (来年度活用) を鋭意制作中
- 3) 北条の魅力体感エコツアー
 - ・1月28日「庄大根と高縄ジビエの里めぐり」、2月25日「かんきつと古墳の里 浅海 探訪」



2月25日「かんきつと古墳の里 浅海 探訪」

② 取組参画協力団体構成図

(1) 風早生きもん DAYS

主催：北条児童センター
共催：市環境モデル都市推進課
運営：森からつづく道
講師：愛媛県生物多様性センター

(2) オオキトンボの里づくり P J

主体：森からつづく道
協力：愛媛県生物多様性センター
関係者：河野地区 (ため池利用関係者)、河野小学校、市環境モデル都市推進課、県農地整備課、市土木課、風早活性化協議会

(3) 北条の魅力体感エコツアー

主体：風早活性化協議会
運営：森からつづく道 (協議会会員)
関係者：市坂の上の雲まちづくりチーム (協議会事務局)、庄大根保存会、高縄ジビエ、浅海地区まちづくり協議会、市文化財課埋蔵文化財担当者

10. 四国ユースサミット実行委員会

取組実施地域：四国

① 平成 29 年度の取組内容

- 1) 四国に生まれ育った四国のユースおよび、これから四国に暮らすユースに対し、未来のふるさとをより良くするために、今何ができるかを語る場を創り、SDGs を活用した地方創生につなぐための仲間づくりを進めた。
- 2) 平成 28 年 7 月に別子山公民館（愛媛県新居浜市）で開催した四国ユースサミット実行委員会以来、SNS 等を活用し意見交換を行っている。

② 取組参画協力団体構成図

四国ユースサミット実行委員会（四国内の高校生・大学生）、wakuwaku-youth（愛媛県内高校生グループ）、新居浜市教育委員会、NPO 法人えひめグローバルネットワーク



第 1 回四国ユースサミット
実行委員会メンバー集合写真

11. 三嶺の森をまもるみんなの会

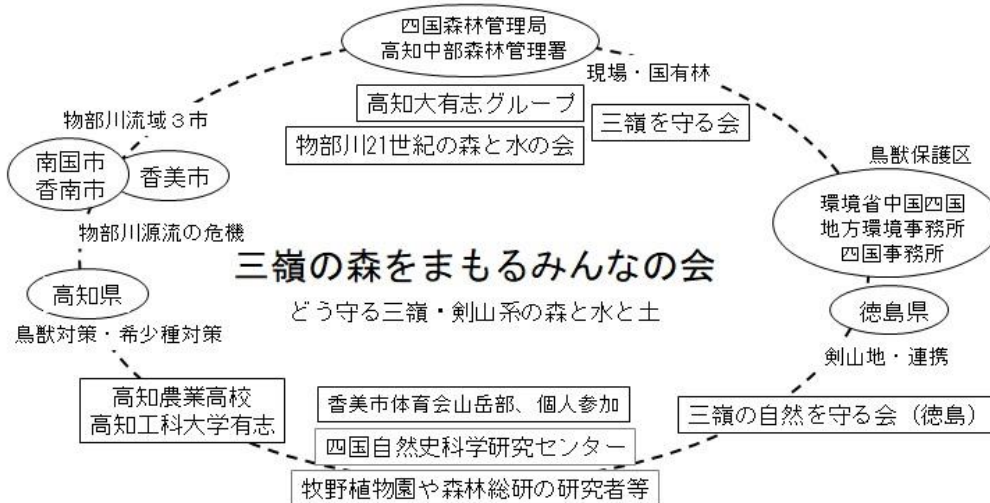
取組実施地域：高知県香美市（香南市、南国市）

高知

① 平成 29 年度の取組内容

- 1) 普及啓発を目的とした写真の展示等の開催（10 回）
- 2) 流域 3 市（香美市、香南市、南国市）の小中学校等との連携による環境学習の支援
- 3) 勉強会「四国最後の聖域石鎚山系に迫るシカ」（平成 29 年 4 月 15 日）
- 4) 「シカ食害で痛む 三嶺の森-再生への途と課題-」作成発行（平成 29 年 5 月 1 日）
- 5) 防護柵（ネット）設置（平成 29 年 5 月 20 日、118 人参加）
- 6) 土砂流出防止マット設置（平成 29 年 9 月 24 日、162 人参加）
- 7) 三嶺の森をまもるみんなの会設立 10 周年記念シンポジウム（平成 29 年 12 月 2 日）

② 取組参画協力団体構成図



10 周年記念シンポジウム



5 月の防護柵設置の様子

12. 南国市環境課

取組実施地域：高知県南国市

① 平成 29 年度の取組内容

- 1) 7 月 2 日 南国市域の海岸清掃
- 2) 2 月 4 日 国分川の芝焼と清掃
- 3) 3 月 4 日 藻川・舟入川の清掃

② 取組参画協力団体構成図

南国市海岸地域美化推進協議会、国分川をきれいにする会、県土木事務所、海岸・河川地域の住民



2 月 4 日 国分川の芝

もっと知りたい そんな時



環境省では、地域での環境パートナーシップ推進の拠点づくりを進めてきました。

環境教育等推進法により、現在、全国8カ所に地方環境パートナーシップオフィスが設置されており、四国EPOもそのうちの1つです。

環境に関する諸問題の解決に向けた取り組みには、地域でのパートナーシップづくりが重要です。四国EPOは、地域におけるNPO・行政・市民等の主体的参加によるパートナーシップづくりに役立つ拠点として、情報の発信や環境教育のサポート、また環境についての相談やコーディネートなどを行っています。



四国地方ESD活動支援センター

Education for Sustainable Development

ESD活動支援センターは、関係省庁が民間団体との連携事業として官民協働で開設したプラットフォームです。日本国内には8カ所（北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州）の地方センターと、広域連携を視野に入れたESD活動支援センター（全国）があります。

四国地方ESD活動支援センター（四国ESDセンター）は徳島、香川、愛媛、高知の4県で、ESD活動の支援や人材育成、情報共有を行います。同時に地域や全国、世界とのつながりやネットワークを活かし、みなさんと一緒に持続可能な社会を目指します。

利用案内・アクセス



〒760-0023

香川県高松市寿町2丁目1-1 高松第一生命ビル新館3階

- ▶ JR高松駅から徒歩5分
- ▶ ことでん高松築港駅から徒歩5分
- ▶ バス停「寿町」下車すぐ

※駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

開館日：月～金 9:00～18:00 閉館日：土・日・祝・年末年始

※スタッフ不在の場合もございます。

ご訪問の際にはあらかじめスタッフの在室をご確認ください。

四国EPO ▶▶▶

TEL 087-816-2232 FAX 087-823-5675

E-mail 4epo@4epo.jp

URL <http://4epo.jp>

Facebook <https://www.facebook.com/shikokuEPO/>

四国ESDセンター ▶▶▶

TEL 087-823-7181 FAX 087-823-5675

E-mail info@shikoku-esdcenter.jp

URL <https://shikoku.esdcenter.jp/>

徳島：四国EPO 徳島サテライトデスク TEL：080-4035-4593

〒770-8008 徳島県徳島市西新浜町2丁目3-102 エコみらいとくしま内

開館：火～金 9:30～18:00 閉館：月・土・日・祝・年末年始

愛媛：四国EPO 愛媛サテライトデスク TEL：080-4999-4591

〒790-0803 愛媛県松山市東雲町5-6

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク内

開館：月～金 9:00～18:00 閉館：土・日・祝・年末年始

高知：四国EPO 高知サテライトデスク TEL：080-4998-4592

〒780-0935 高知県高知市旭町三丁目115番地こうち男女共同参画センター ソーレ3F

認定特定非営利活動法人環境の杜こうち内

開館：月～金 9:00～17:00 閉館：土・日・祝・第2水曜・年末年始

